

## 大谷學報 第二十一卷 第三號

## 七四

二、「他力廻向」の妙旨  
三、信と行

四、信仰の現世利益

五、往生・成佛

## 第二章 信者の一生

一、聞法

二、入信

三、信のすがた

四、信仰生活

## 第三章 皇法と眞宗

一、本佛の抑止

二、釋尊の悲化

三、皇法の規模

四、皇法と佛法

右について、之を師説に依ると、先づ「序説」に於て最も誤解の多い「後生の一大事」と云ふ語の意味を明かにし、眞宗、廣くいへば佛教が永生（後生）の問題を解決する教なることを注意し、次に宗祖親鸞聖人の佛教觀を判り易く叙述し、之に依つて讀者をして佛教（眞宗）が轉迷開悟を問題とすることと、之に對する解決法の一斑を心得しめ、又自ら眞宗の地位をも明了ならしめんとしてゐられる。

次に眞宗の教義を二章に分け（之は「教行信證」の體裁に則つたものであると云はれてゐる。）

第一章を「如來の攝化」と題し、如何に我々凡夫を救ひ給ふかの過程を顯し、第二章を「信者の一生」と題して、我々凡夫の救はれて行く過程を述べられてゐる。そして、眞宗は凡て如來の本願を根據とするから、如來の攝化を叙するに、各項一々「本願の文」を掲げ、その願意を明かにしつゝ、如來攝化の跡を顧み、こゝに眞宗教義の一斑を叙してゐられる。第二章では宗祖の入信を判然せしめんと努めてゐられる。

次に第三章「皇法と眞宗」を加へたのは、中興蓮如上人が眞宗を「王法と佛法」の二項に約された意味を顧み、宗祖親鸞聖人の上にもその意味のあることを確め、皇民としての立場から再び眞宗を概説したもので或は此章から先に讀んで、次に序説にかへり第一章第二章と移り讀んだ方が分りよいかとも思ふと言つてゐられる。以上殆んど師言を引用したが以て内容一般を察知せられ得た事と思ふ。

（眞宗講座第五回配本 定價壹圓貳拾錢）（K）

## 研究室彙報

## 眞宗學研究室

## △眞宗學會

○圖繪展觀並に講演

講演 六月六日午後三時より第七教室に於て、加藤教授の「圖

繪と本願寺」と題する講演あり。

展觀 六月七日午前十一時より午後三時迄圖書館閱覽室に於

て加藤教授所藏の本願寺に關する古今の圖繪を展觀す。他に圖書館及び可西教授より祕藏品の特別出品あり、參觀者多數あり。

### ○見學

六月二十三日早朝より左記の道程により見學す。參加者、可西主任初め一乘助手、小島、富永兩副手、學生數名なり。

知恩院―青蓮院―蓮如上人御墓―山科西別院―南殿跡―山科東別院―西念寺―勤修寺―隨心院―三寶院―法界寺

## 佛敎學研究室

### △大乘佛敎學會例會

六月二十一日(金) 於第八教室

「大乘の語義に就いて」

泉 教授

出席者 佐々木教悟先輩、泉副手、研究科佐々木近、學生約十名

## 人文學研究室

研究室彙報

## △國史學會

### ○卒業論文第二回發表會

二月十日(土)午後三時 於第七教室

一、中世の音樂 特に佛敎音樂に就いて

一、蓮月尼の生涯

一、安土桃山時代に於ける近代精神

一、相州三浦氏の研究

一、眞清田神社の研究

他に高木麗敬君は病氣の爲歸郷中に就き論文の發表なし。

霜田香英君は單位の都合上六月に提出さるゝ豫定

出席者 徳重教授外學生二十二名

### ○卒業生送別會

日時 二月十日(土)午後六時

場所 烏丸三條東入 佐藤亭

一同打揃ひて記念撮影をなす。

出席者 徳重・土居兩教授・井上先輩外學生二十名

### ○有隣館見學

日時 五月五日(日)午後一時

漢唐時代の古美術より支那に於ける玉璽官印帝王の調度品等

支那文化を偲ぶ好個の資料多數を參觀す。

出席者 徳重教授・藤居・柏原兩先輩外學生十三名

### ○新入生歡迎會

日時 五月五日(日)午後六時

## 大谷學報 第二十一卷 第三號

場所 河原町三條 新みやこ

徳重教授より新入生に對して國史研究會の意義に就いて御説明があり更に今後の國史研究の態度及びその進むべき道に就いて御懇篤なる御指導あり。

出席者 徳重教授・藤島教授・倉田・柏原兩先輩外學生二十  
二名

## △東洋史學會

## ○第一回例會

六月廿日(木)午後三時より第八教室に於て例會を開く。

講題 正定に於ける佛教史蹟に就て

講師 諏訪教授

野上・道端兩教授以下在學生多數の出席あり。

## ○學三杉本光美君歡迎茶話會

本夏北支派遣興亞學生報國隊に参加せる杉本光美君の現地報告を聞き其勞を犒ふため、九月十七日(水)午後三時より學友ホールに於て開催す。專攻在學生出席。

## ○第二回例會

十月七日(月)午後三時より第十一教室に於て例會を開く。

講題 元の功德使司に就て

講師 野上教授

諏訪・道端兩教授以下在學生多數の出席あり。